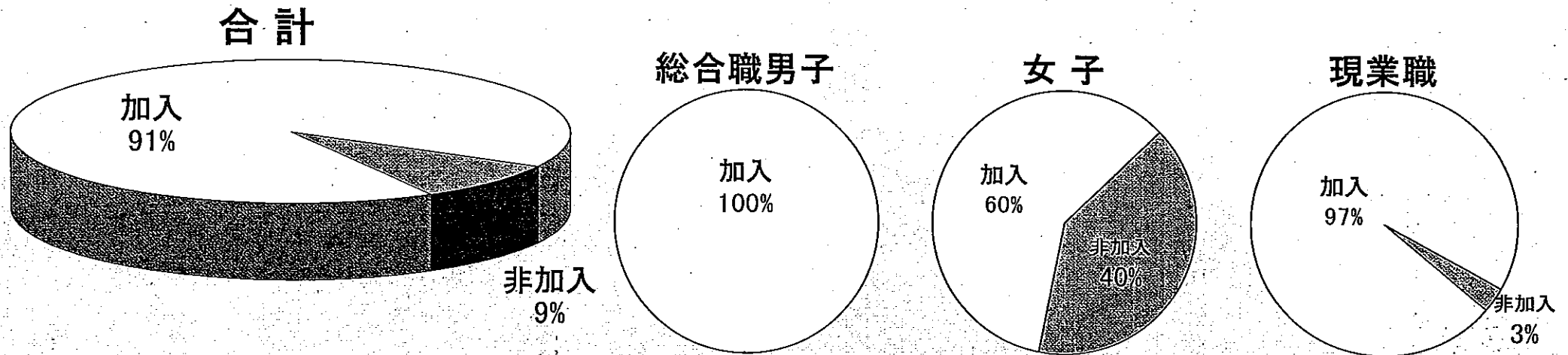


# 確定拠出年金制度の概要

1. 制度導入時期 平成14年4月 (拠出は平成14年5月から)
2. 対象者 363名  
役員・60歳以上の者・入社後3ヶ月以内の試用期間中の者を除く
3. 加入者 332名 確定拠出年金
4. 非加入者 31名 前払退職金  
非加入者は後に加入可(年に1回の指定期日までに申込必要)
5. 加入率



## 確定拠出年金制度の概要2

### 6. 拠出額

等級	基準給	× 3% (定率)
総合職1等級	200,000円	6,000円
総合職2等級	250,000円	7,500円
総合職3等級	300,000円	9,000円
基幹職C	400,000円	12,000円
基幹職B	500,000円	15,000円
基幹職A	600,000円	18,000円

7. 給付方法 有期年金(5年~20年)または一時金 選択可

### 8. 費用負担

- ✦ 制度運営費用 会社負担(ただし、社員在籍中に限る)
- ✦ 資産管理費用 会社負担(ただし、社員在籍中に限る)
- ✦ 資産運用費用 社員本人負担
- ✦ 特別法人税 社員本人負担

# 確定拠出年金導入時の労使合意と社員教育

---

## 1. 確定拠出年金導入説明会

- ◆ 参加者 対象者363名のうち、病気で欠席の者4名を除く359名(98.9%)
- ◆ 方式 職場単位又はブロック単位 1回15~30名 (延べ18回) (導入に賛成の者 93%)
- ◆ 説明方法 人事部作成のパワーポイントによる説明  
人事部作成の資料の配布  
運営管理機関作成のビデオの配布(1部署に2個)  
運営管理機関作成の資料の配布

## 2. 従業員代表者懇談会催

- ◆ 参加者 各ブロックの従業員代表者 26名(2名業務の関係で欠席)
- ◆ 討議内容 各ブロックの意見交換、最終的合意(出席者全員が賛成)

## 3. 制度の詳細・投資・商品・手続きに関する説明会の実施

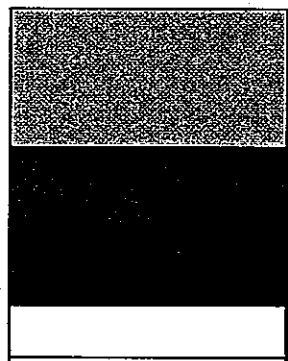
- ◆ 参加者 対象者363名のうち、357名(98.3%)
- ◆ 方式 原則としてブロック単位 1回25名~35名(延べ12回)
- ◆ 説明者 運営管理機関及び運営管理機関からの派遣者
- ◆ 説明方法 パワーポイントによる制度詳細及び投資に関する説明  
資料による商品及び手続きの説明  
人事部作成の資料による社内手続きに関する補足説明

## 運営管理機関からの派遣者による説明の問題点

- ◆ 同一の講師でないので説明内容にバラツキ多い  
(とくに社労士で投資経験の少ない説明者に問題あり)
- ◆ 一般論的、教科書的で、実践的でない
  - a. リスク許容度の実践的な捉え方→不十分
  - b. 購入時手数料、信託報酬などトータルコストの捉え方→不十分
  - c. 分散投資の捉え方→不明確
  - d. ライフサイクルファンドの意義→不明確
  - e. 資産配分に対する捉え方→不明確

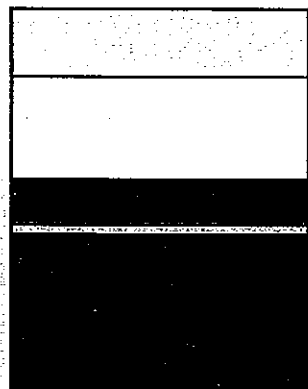
# 社員の生の声(平成14年12月、アンケート実施)

## (1) 適格年金から確定拠出年金への移行



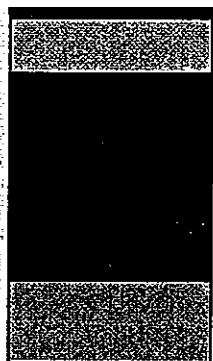
- 経営上、退職給付債務の縮小のため必要 (39%)
- 確定拠出年金は自助努力の時代のあらわれ(44%)
- 確定拠出年金は社員がリスクを負うなど問題(15%)
- 制度自体が十分理解できず何とも言えない (2%)

## (2) 確定拠出年金制度で最も問題があると思うのは何ですか



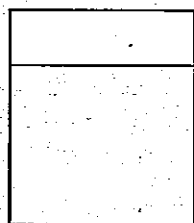
- 拠出金の限度額をもっと大きくして欲しい (18%)
- 60歳にならないと支給されないのは問題 (27%)
- マッチング拠出が認められないのは問題 (12%)
- 個人のリスクが高すぎる (2%)
- どの商品を選択すれば良いかアドバイザーが欲しい(41%)

### (3) 確定拠出年金移行の際、実施した説明会の内容



- 導入理由、制度、商品、投資のすべてが理解できなかった (0%)
- 導入理由は理解したが、それ以外はあまり理解できなかった (3%)
- 導入理由、制度は理解したが、商品、投資が理解できなかった(16%)
- 導入理由、制度、商品、投資など全体的に一応理解できた (58%)
- 導入理由、制度、商品、投資など十分理解できたと思う (23%)

### (4) 投資などの継続教育を自由参加形式で実施の場合、参加しますか



- 任意なら参加するつもりはない (25%)
- 制度や商品、投資について詳しく知りたいので参加したい(75%)